

日本NPO学会第23回研究大会

Japan NPO Research Association (JANPORA)

The 23rd Annual Conference

M20会人6

開催日 2021年6月19日～2021年6月20日(2日間)
開催地 東北大学(オンライン)
申請者 東北大学 大学院経済学研究科 教授 西出優子

会議の概要と成果

日本NPO学会第23回研究大会(2021年6月19日～20日)では、公開シンポジウムおよび28のセッションを通して、民間非営利活動の現状と課題を学術的視点および実践的視点の双方から検討することができた。特に、東日本大震災から10年が経過したタイミングでの大会を、東北大学(宮城県仙台市)が主催校として開催することを受け、震災をめぐる多様な企画を設けたほか、「東北NPO応援割」を設定し、実践家の参加を促した。

新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、対面実施は見送ることとなり、本助成金申請時の計画から大幅な変更を余儀なくされたが、以下のとおり、すべてのセッションを完全オンラインで実施することができた。

■公開シンポジウム「非営利セクターの現在地～東日本大震災から10年、達成されたこと、積み残された課題」

東日本大震災以降、様々な立場から非営利セクターに貢献された方々を招き、約3時間の議論を行った。前半は、「異なる立場から捉える非営利セクターの現在」と称し、岡本全勝氏(元復興庁事務次官)、田尻佳史氏(日本NPO

センター常務理事)、石田祐氏(日本NPO学会会長・宮城大学教授)の登壇を得て、マクロな視点からの議論を行った。後半「非営利セクターの新潮流と課題、そしてこれから」では、より現場に近いミクロな視点から、加藤拓馬氏(まるオフィス代表理事)、湯浅誠氏(社会活動家/全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)、吉田恵美子氏(ザ・ピープル理事長)から話題提供を受けた。モデレーターは、菅野拓氏(大阪市立大学准教授)、葛巻徹氏(いわて連携復興センター代表理事/みちのく復興・地域デザインセンター代表理事)が務め、大会参加者以外にも公開する形で実施した。

■東日本大震災から10年に関する企画委員会セッション

大会のキックオフイベントとして実施した「公開!企画会議」(2020年12月19日)にて、学会員が特に関心を寄せているテーマとして浮かび上がってきたものを中心に、多様なトピックのセッションを企画、実施した。

- ・東日本大震災にかかわる民間助成プログラムの実態と教訓
- ・非営利セクターの若手人材の新しい働き方・関わり方
- ・みやぎボイス連携セッション

- ・セクターの垣根を超える、非営利セクターの多様化
- ・中間支援組織とそこで働く人たち ～実践者の言葉からその役割を紡ぐ～
- ・NPO教育と学生の力
- ・NPO(実践者)と大学(研究者)による地域内連携を深めるためには？

(ワークショップ)

■実行委員・企画委員と震災をふりかえる会

河北新報社、経済産業省東北経産局、東北大学課外・ボランティア活動支援センター(震災後設立)のスタッフ、東北大学教員を交えて、参加者ととともに、当時の経験や示唆を共有する時間を設けた。

■国際企画パネル「大学におけるNPO教育

～日本、韓国、中国、台湾、香港、米国の実態を探る」

上記地域在住の研究者が登壇し、各地域の大学で提供されている、非営利セクターに関するプログラムや科目に関する調査報告を行った。2セッション分の時間を割り当て、Zoomの機能を活用した同時通訳を提供した。

■オンライン交流会

ネットワーキングの場として重要な意義を持つ懇親会に代わり、oViceを用いた交流会を実施した。オンラインでありつつも、よりリアルな懇談の場に近い形のプラットフォームを採用することにより、参加者の交流を促進できた。

■エクスカージョン「東北沿岸部で活動するNPOリーダーとの対話会」

大会に先立ち、震災後に宮城県石巻市で活躍してきた実践家3名を招いたセッションを実施した。東北芸術工科大学・矢部寛明ゼミナールの協力を得、当日に先立ってプロモーション動画(https://www.youtube.com/watch?v=_kSCWyI_XCc)を公開したほか、グラフィックレコーディングにて当日の内容を記録した。参加が叶わなかった会員にも、後日動画を公開した。

・6/9(水) 19:00-20:20

亀山貴一氏(一般社団法人はまのね代表理事／一般社団法人ThirdSelf代表理事)

・6/10(木) 19:00-20:20

松村豪太氏(一般社団法人ISHINOMAKI2.0代表理事)

・6/11(金) 19:00-20:20

鈴木平氏(NPO法人TEDIC代表理事・事務局長)

